

親子聖書日課

[日]アモスは南ユダのテコアの羊飼いであり、農夫でしたが、主の召しを受けて北イスラエルに主の言葉を語ります。主は宣教のために、無力な者を選ばれました。主の救いに与った人なら誰でも、主の証人になれます。主の赦しを語りましょう。

[月]麦束を満載した車輪はきしみ、牛はあえぎ、車は今にも壊れそうになりました。この麦束こそ、私達の罪の重さを表します。しかし、主は罪の下敷きとなって、血の汗を流して、目的地へ導いて下さいます。罪の重荷を負って下さる主に感謝！！

[火]獅子が吠えるよりも、神の審判はもっと恐ろしいのですから、語らずにはいられません。「私は口下手です」「今は忙しい」といって、語ることを回避していたら、主の救いを知らずに、人々は滅びます。主の愛に迫られて、どんな時も語りましょう。

[水]主は私達にとって最も愛すべき方ですが、「出会う備え」をするのは、当たり前です。この備えとは、悪を離れ、罪を捨て悔い改めて、主を受け入れることです。すると、交わりが深まり、祝福に与れます。今、主に会う備えはできていますか。

[木]民は沢山のものを捧げたら、主に祝福されると思い込みました。自分のやり方で主を喜ばせようとした。しかし、主の願っておられるのは、主に何かをすることではなく、へりくだって「主を求めて生きる」ことです。主のみ心を求めましょう。

[金]まったく自分の罪深さを省みないのは、「安逸をむさぼる者」です。主の十字架の苦しみを見ると、安閑としてはられません。主が命を捨てて下さった、その大きな愛に応えて、日々自分に与えられた十字架を負って、主に従いましょう。

[土]とりなしの祈りは、主の思いを踏み留まらせるほど大きいものです。「主よ、彼を赦して下さい」とアモスのように祈りましょう。最終的には、本人が悔い改めてこそ救われますが、祈りは神と人の心を動かしますから、祈り合いましょう。



NO.1926 2025.8/24-30

名前

	聖書	問題	答え
日	アモス 1:1-15	三つの罪、四つの罪ゆえに主は決してどうしませんか。	
月	2:1-16	見よ、主は何を満載した車が、お前たちの足元の地を裂きましたか。	
火	3:1-15	主なる神が語られる、誰がどうせずにはいられませんか。	
水	4:1-13	お前は自分の神と出会う何をすべきですか。	
木	5:1-27	誰を求めて、生きるべきですか。	
金	6:1-14	サマリヤの山で何をむさぼる者らは、災いですか	
土	7:1-17	主はこれをどうされ、「この事も起こらない」と言われましたか。	
感想と祈りの課題			

